

施策番号	448	施策名	道路網の整備	主管課名	建設課
総合計画 体系	政策名	4	快適な生活環境の里づくり	令和 2 年度課長名	安道 智秋
	関係課名			シート作成者	池田 幸徳

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 町道	→	ア	道路延長(町道)	km	見込値			460.5	460.6	460.6
						実績値	460.0	460.0	460.5	
イ 町内の国県道	→	イ	道路延長(国県道)	km	見込値			164.0	164.8	164.8
						実績値	164.6	164.8	164.8	
ウ	→	ウ			見込値					
						実績値				
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 快適で安全な通行ができる	→	ア	町内の道路が快適・安全に通行できると感じている町民の割合	%	目標値	59.6	59.8	60.0	61.5	61.6
					実績値	58.6	61.4	60.7		
					達成率	98.3%	102.7%	101.2%	98.7%	98.5%
イ	→	イ	道路改良率	%	目標値	53.0	53.2	53.5	52.6	52.7
					実績値	52.3	52.4	52.4		
					達成率	98.7%	98.5%	97.9%	99.6%	99.4%
ウ	→	ウ	道路舗装率	%	目標値	87.7	87.8	87.8	86.7	86.7
					実績値	86.6	86.6	86.6		
					達成率	98.7%	98.6%	98.6%	99.9%	99.9%
エ	→	エ			目標値					
					実績値					
					達成率					
⑤ 成果指標 設定の考え方	アは直接設問により有効と考えた。 イ・ウは向上させることにより快適で安全な通行ができる。			⑥ 成果指標の 把握方法と 算定式等	ア 町民アンケート(対象者1,000人中481人が回答) イ・ウ 道路統計資料					

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上 に向けた 住民と行政との 役割分担	地域内道路の維持管理については草刈、側溝清掃、ごみ拾いなど、できる範囲で住民の自助、共助で行う。	地区間道路(町道)の整備と維持管理、地域住民の要望を把握し優先順位に基づき改修事業を実施する。 幹線道路(国県道)の整備は国・県が事業主体であるが、町は整備要望を行い、事業の実施においては地元調整を図る。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因	
2 年度 の 評価結果	① 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?) 道路改良率は52.4%、道路舗装率については86.6%と前年比較して増減はない。 町民アンケートでは、道路が快適・安全に通行できると感じている割合が前年対比▲0.7ポイントとなっているが、内訳として、おおいに感じているが1.3ポイントの上昇となっており、要因としては災害復旧工事の完了で、片側交互通行箇所などの解除がされた事によるものと思われる。 <input type="checkbox"/> 向上した <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input type="checkbox"/> 低下した
	② 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?) 岡山県内の市町村の整備水準と比較すると、道路改良率で6.5ポイント(平均45.9%)上回っている。 また道路舗装率は5.4ポイント(平均81.2%)上回っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 高い水準 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
	③ 住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか?) 日常的に利用する道路に対しては、住民の期待は非常に高く、常に不具合箇所の情報が寄せられている。 道路管理では特に緊急度の高い補修工事及び整備工事を優先的に実施している。 <input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
2. 施策の成果実績に対する 2 年度の取組や目標達成度	
■ 2 年度の主な取組の成果(改革改善した取組、目標の達成度は?) 令和2年度の町道整備は、起債対象事業で4路線、単独改良工事及び舗装修繕工事として7件、平成30年7月豪雨の復旧工事として2件の整備をそれぞれ実施した。また、緊急を要する小規模な工事で、特に地元要望の強い箇所を121件整備した。補助橋梁整備事業費として、橋梁点検業務を100橋、老朽化に伴う修繕を4橋行った。 道路河川愛護事業として、道路等の維持管理作業を、町内93地区の住民の協力により実施した。 <input type="checkbox"/> 目標値以上 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値以下	
3. 施策の今後の課題と改革改善の方向(うまくいかなかった取組や事務事業は? その原因は?)	
今後、高度経済成長期に構築した道路・橋梁の老朽化の進行によって、計画的な修繕対応が必要になるが、工事に伴う人件費・原材料・諸経費の高騰化が進んでおり、コストの上昇が懸念される。 高齢化が進み、地域での維持管理活動が困難になっていくことが考えられ、町の管理コストの増大が懸念される。 地籍境界の誤差については、地図訂正などの業務を的確に行うことにより、円滑な推進を図る。	